

京都支部における 中長期的視点での保険者機能

平成30年10月18日

平成30年度下期方針説明会(資料抜粋)

医療資源の適正な供給（医療機関・行政）
 ー 地域医療ビジョンの策定・遂行

医療費のマネジメント

基盤的業務の強化

ー 山崩し方式による生産性向上
 （将来を見据えた戦略的な人員配置）

適正な受診（患者）

ー 重複受診等の防止
 ー ジェネリック医薬品の利用促進
 ー 必要な受診勧奨
 （服薬コンプライアンス）
 ー レセプト点検の強化

病気・コストの発生防止（加入者）

ー 保健事業の基盤
 ・健診データに基づく意識づけ
 ・職場環境の整備
 ー 個別事業
 ・保健指導（重症化予防）による
 リスク改善
 ・その他事業

支部相互の健康格差の見える化と縮小

【京都支部】 **2年連続の赤字**

《短期》次年度保険料率10%の堅持

各事業の医療費適正化効果額
 料率への影響(▲0.16%)
 医療費の伸率の検証

《中長期》6か年計画
 健康格差の縮小

・**データヘルス計画**
 「心疾患死亡率の減少」

・**被扶養者(家族)の健康度向上**
 扶養率全国12位
 扶養者医療費寄与額が高い

↓

家族健診の充実
 ミニドック・なでしこ健診

各事業の医療費適正化効果額と医療費への影響

(1) ジェネリック使用促進

使用割合0.1%上昇により年間約600万円の効果
30年度目標73.4%(+1.3%)を達成すると年間約7,800万円の効果

料率換算
▲0.004%

(2) 保健指導の実施

保健指導1人当たりの年間効果額:6,000円
30年度目標実施者数:5,900人→効果額3,450万円

料率換算
▲0.002%

(3) レセプト点検効果

29年度診療内容査定効果額:1億2140万円

料率換算
▲0.006%

(4) 債権回収の促進

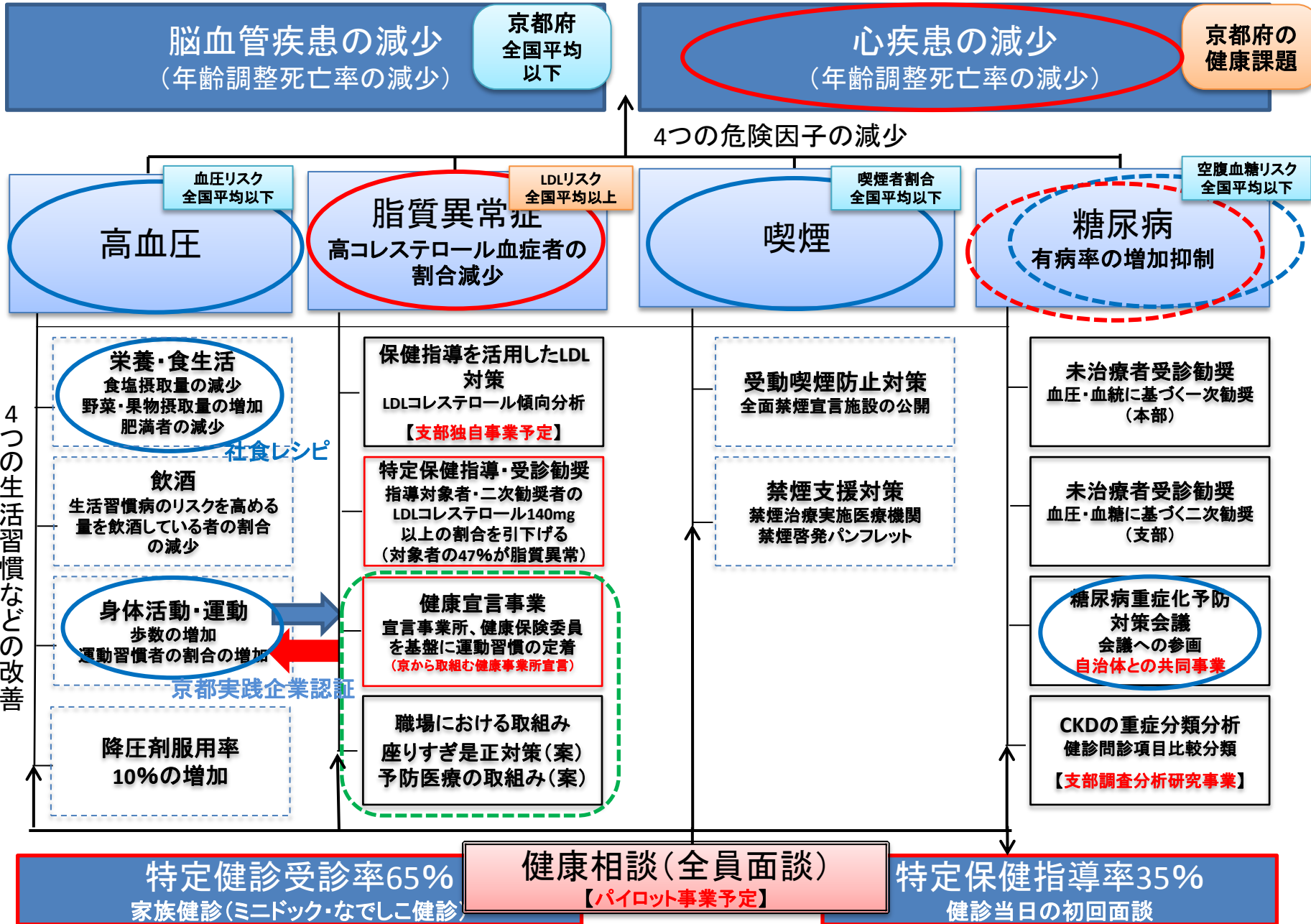
29年度回収額:3億円(料率に影響のあるもの)

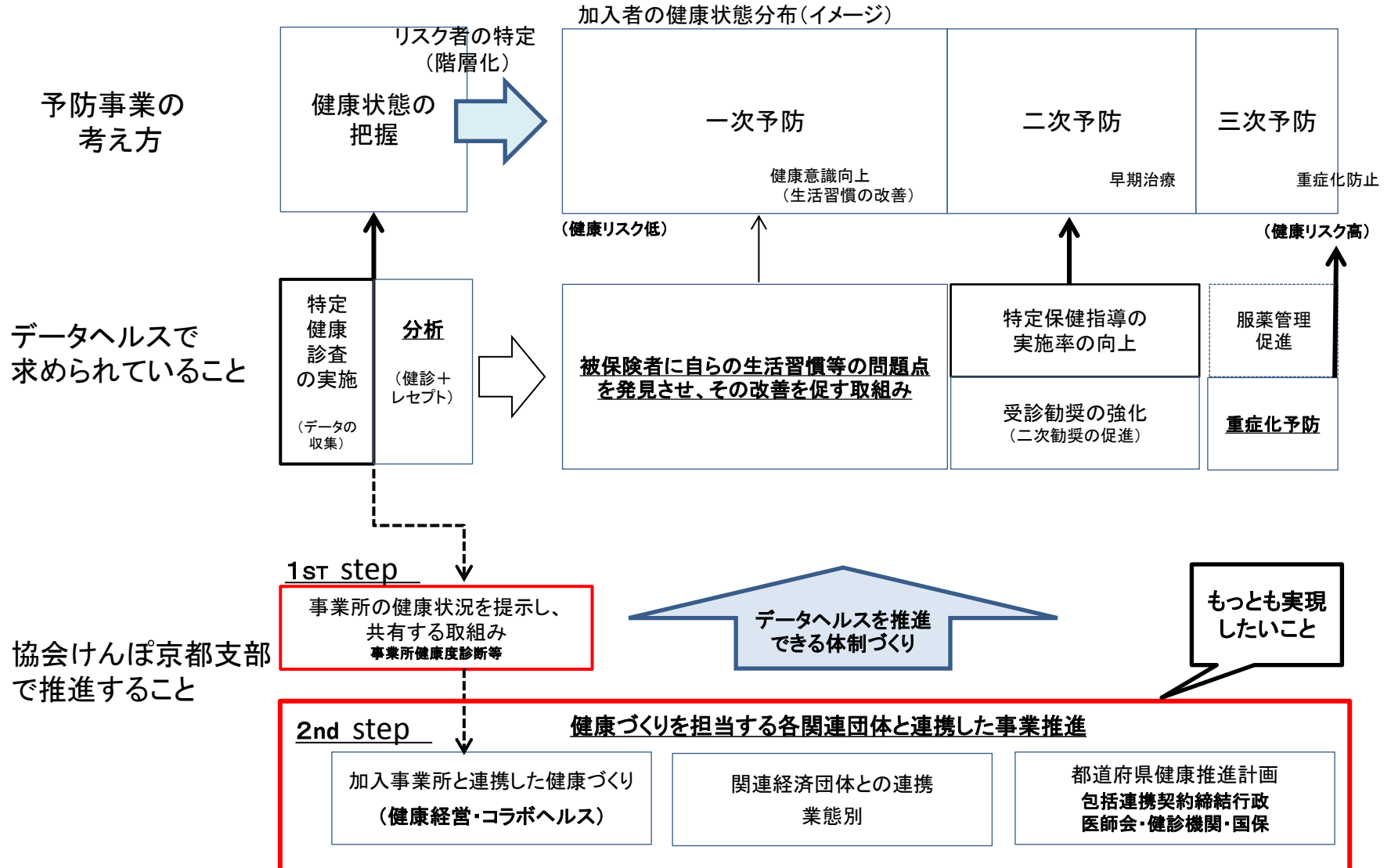
料率換算
▲0.015%

健康日本21(第2次)における循環器の目標設定の考え方より(循環器疾患の予防)

○ : 協会けんぽ

○ : 京都府





従来のハイリスク・アプローチだけでは、リスク低下の効果は限定的です

集団全体に働きかける仕組みが必要です